

海 (かいし) 市

No. 25

● 詩

- 02 前田 勉 佇む
- 06 横山 仁 生活の柄 (20)

● 招待席

- 08 成田豊人 蜃気楼

● エッセイ

- 12 細部俊作 「旅立つには最高の日」から
- 15 佐藤ただし 水田とツバメ (23)
- 18 横山 仁 雑記 (25)

佇む

前田 勉

夏 佇んで

信号が変わるまでのわずかな時間
久しく聴かなかった蝉の鳴き声に気付くと
わざとらしく

耳鳴りが

すべてを覆いつくし

先ほどまで思いあぐねていたことも

消され

時が刻みを止める

眼の前を
駆けて行く車の列
通りすぎて行く無表情の人
熱せられた風に切り裂かれながら
流れてゆく街の音

白ばむ季節の中で咲き誇る蓮の花
の
かすかな翳り

向こう側で
少女のあわい水色のスカートの端が
かるやかに揺れている
いつか語ってくれた
想い出のように

木漏れ日に絡みつきながら

ミラーシャッターの

カシヤリとした音とともに

わたし

と

影が

夏に記録される

生活の柄(20)

横山 仁

夜

男は 茶碗を洗っている

と

まだ帰ってこねが？

老母は だれを 待っているのだろう

そういえば

戸締まりをした後で

施錠が はずされていることがある

老母は なにを 待っているのだろう

亡くなった夫の帰りか？

退職した 残業帰りの息子か？

娘のところに行って ずっと顔を見せない妹か？

夜 と 朝

彼岸 と 此岸

のっぺらぼうの

エーテルのなかに

胃袋だけが

やわらかく さわついている

蜃気楼

成田 豊人

渋谷スクランブル交差点

五十年近く前

肩を寄せ合って渡ったこともあった

一瞬とか 永遠とか

眼中になかった

ただ行き先はセンター街の先の底なしの暗がり

暗闇を抜けるようにして

予定調和的に

生れ育った土地に戻った

山と川とついでに新鮮な空気が有り余り

違和感をどこかに隠して

ひたすら真面目に誠実に

褒められる事なく生きて来て

人々は年老い

子供の希少価値は増し

商店街は売地と空き家が目立ち

郊外のショッピングモールだけは

毎日お祭り騒ぎ

買い物に行くたび

どこか知らない土地を彷徨っているようで

モールの窓は磨き上げられ

人々の姿がいかに幸せそうに映っている

ちよつと離れた所から

みすばらしい老人がこつちを睨んでいて

立ち去る前に横目で眺めると

どう見ても

ガラスに映った自分だった

いつものように

複製に過ぎない一日の終わりを

深夜のテレビニュースで締めくくる

毎度映し出される広い交差点の人ごみ

誰もが大事な目的があるように歩いていて

画面の片隅に

相も変わらず暗がりに向う

あの頃の僕達に似た姿もあつた

「旅立つには最高の日」から

細部 俊作

図書館の新刊本コーナーにあった本で、巻末にはアフリカ東部の地図があった。アフリカを旅するとはどんなものなのだろう、という関心で借りたのだった。著者は一九六〇年生まれ作家田中真知さん。三省堂が二〇二一年六月に出版した。田中さんは六年前にアフリカ滞在経験をもとに本を出し、第一回斎藤太賞特別賞を受けている。

*

旅先はスーダン、エチオピア、エジプト、ウガンダ、マダガスカルといった国々。エチオピアやエジプトでは修道院を訪れた。スーダン鉄道が大きく揺れる車両の屋根の上で仰ぎ見た星空の美しさや、マダガスカル島では悪路に車が立ち往生しても一向に脱出させ

ようとしない島民の気質のことが紹介されている。また、ある村では牧歌的な様子が描かれていて、人々のくらしの一端が語られている。

かと思えば、新年の祭りを取材に訪れたその地域が、まさに内戦の渦中にあることを知ったり、訪問予定地で暴動が起きていたなど、うっかりすると厄介なことに巻き込まれかねない、それがアフリカだったし、エチオピア北部は「大地には慰みがない。血肉は喰らいつくされ、骨だけが天日に晒されているような土地がどこまでも続く」（「山上の聖地」から）といった風景で、緑や水の豊かな日本とは次元の全く異なる乾ききった世界が広がる、それもまたアフリカなのだった。

*

この本には旅行記のほか著者の幼少期の思い出なども収められているが、修道院の修道士や老いたクパツカーの語る話の方に興味が向いた。

エジプトなどには長い歴史をもつ修道院が多く点在するのだという。数十キロ四方無人の砂漠にある修道院で孤独な修行の日を送る修道士がいる。田中さんはじめに紹介した修道院は、エチオピア北部の標高

二千メートルの山上にあって、その台形状の山頂に登るには一本のロープを伝って登らなければならぬ。

かつてここに来た青年が「ここは水も乏しく修道士の持ち物はぼろ布と聖書くらいだ。このシンプル過ぎる暮らしは何か別の価値に支えられているのかもしれない。何らかの恩寵とかに。けれど自分にはそれが何かは見るすべがなかった。怖れと不安を感じ、いたたまれなくなつて山を下つた」と書いた手紙をくれた。それが念頭にあつて田中さんはここに来たのだつた。若い修道士の庵の中で見たのは煤だらけの湯沸かし鍋、オイルランプ、編んで作つたイスくらいだつたという。日本の隠れ家的な住まいの庵と比べれば、孤絶の度合いがかなりなものと思つた。ほとんど無一物となつて送る日々とはどのようなものだろう。

二か所目はエジプトの修道院（キリスト教コプト正教）で、取材に応じた修道士から「自分たちは何ももとつとしない、もつことに心を砕く必要がないから悩まずに済む。ここには何の情報もない。戦争が起きようが王様が変わろうがそれでかまわない。自分たちにとつては神を感じることでだけが意味のあること」とい

う言葉を聞く。

また、ある修道士が語つた言葉に「人間は何かを所有できるとか、なにかに縛られていると思ひ込んでいられるけれど、それは夢だ。人間はなにも所有できないし、何にも縛られていない」というのがあつた。煙に巻くような感じだがどんな意味だろうか。キリスト教の教えでは、ひとが大なり小なり財産を得ることは否定せず、それをより高い価値を生む方に生かすと考えるのだと聞いたことがあるが、この修道士の言葉はそれとは違う。所有欲に縛られ、執着してしまふということは人間にありがちなことだが、それを夢だという人は所有することも縛られてもいない、といつている。のみこめない言葉を前にした感がある。

*

終章にバックパッカーSさんとの対話が載っている。Sさんは人生後半の二〇年間、地球を旅して回つてきた。旅先ではいくつもの予想外の出来事に遭遇した。人間に目的はない、生きていくだけ、だから楽しむべし、それが生きる目的、というのが彼の信条だ。

晩年になつて、帰国後、肺がんで入院した。自分が

そう長くはないと悟ったSさんは、残った自分のお金はアフリカのために使ってほしいと希望した。その希望は、田中さんたちの計らいで、孤児たちの世話をするケニアの友人に送金したことで果たされた。

八〇代半ばになったSさんは、田中さんに髪の毛を少し切りとってもらい、自分が死んだらそれをケニアの大地の景色のよいところへまいてほしいと希望した。二か月後、その髪は、ケニアの丘に立った友人の手から風に放たれ、サバンナに飛んで行ったという。

田中さんは「人の悩みのほとんどは失うことへの怖れか、失ったものへの後悔にある。だが、この世で人がもっていると思っているものは、じつはあずかっているだけかもしれない。失ったというのは、あずかりものを返しただけなのかもしれない。あずかったものを返すのはあたりまえのことだ。たとえ、それが命であらうとも」と綴っている。

これは、これまでの旅の体験やSさんの死を悼んだ末に得られた感慨だろうか。あずかっている、お返しする、それは、たとえばかけがえないひとやものを失って、深い喪失感に沈んでいるときに、気持ちを軽

くしてくれる言葉であるように感じた。

*

新型コロナウイルスの感染を避けて、近隣の県へ行くことにも抑制がかかる。そんな時期にアフリカの旅の本を借りたのがそもそもピンボケかと思ったが、「あとがき」にはこうあった。

「コロナ禍のせいで見えてきたこともある。当たり前前だと思っていた日常も、いつ断ち切られるか分からない。しなくてはならないと思いこんでいたものの多くは、実はしなくても何とかなること。自分が本当にしたいことを見直す方が大事であること。それこそ旅の感覚と同じで、荷物は必要なものを厳選する、目的地へ着くことより過程を味わう。人との偶然の出会いを楽しみ、会いたい人に会う。そんな旅のまなざしで日々と向き合うとき、日常はそのまま旅となり、今日は旅立ちの日となる」。この本の刊行の意図はそこにあった。

水田とツバメ (二三)

佐藤ただし

・伯母が残していったもの

七月に伯母が亡くなった。享年九一歳。伯母は母の姉で、二十歳で秋田市雄和から豊岩の前郷に嫁ぎ、半生を過ごした人であった。私の家が隣の町内で、田んぼも離れていなかったこともあり、五ヘクタールほどの田んぼの田植えや稲刈りなどを共同で行っていた。

この家の雰囲気が良いせいとか、田植えの時には子や孫や近親の者が多く手伝いに来て、賑やかな田植え風景が見られた。

一〇年ほど前までは元気に畑仕事をしたり、イネの苗の面倒を見てくれたりしていたが、七年前に家の裏で転び、腰を痛めてから車椅子の生活になり、その後

は施設に入って暮らしていた。

母の話だと伯母は小学校の頃、担任の先生の影響もあって歴史好きになり、豊岩の歴史にも関心を持っていたようで、話を聞きに人が来ていたという。

また短歌を詠むことを趣味としていて、家業の農業のことや家族のこと、旅行先で詠んだ歌などを、購読していた読売新聞に投稿していた。平成三〇年に伯母の娘が、掲載された短歌をまとめて卒寿記念の歌集を作った。それを読むと長く携わった農業や家族への思い、家の周りの風景や一人で暮らしていたころの心情などが詠まれていた。『夕月』というタイトルのついたこの歌集は葬儀の日会場にも一冊置かれていた。

伯母は自分が亡くなったら、棺には何も入れないでくれと家族に言っていたという。これから仏になるまで、修行しなければならぬ身だから、余計なものはいらないと邪魔になると言っていたという。私たちには多くの思い出とこの歌集を残し、身軽になってあの世に行ってしまったことになる。

伯母が残していったもので、思い出すのは『粥(キヤ)の子』という小正月料理のことだ。この豊岩では

毎年小正月行事として『ヤマハゲ』が行われているが、この日前郷では各家々で小正月料理として粥（キヤ）の子が振舞われていた。私の家にも伯母から小鍋に入れた粥（キヤ）の子が届けられた。

聞くところによると粥（キヤ）の子は、昆布を一束水に漬けてだし汁を作り、ダイコンやゴボウ、コンニャク、ワラビ、ニオサクなど十種類ほどの野菜や山菜などをすべて一センチ四方の同じ大きさに刻んでおく。また、金時豆は別の鍋であらかじめ煮て置き、大鍋と一緒にに入れて煮るといふ。そして具材が煮えた頃、別の鍋で煮たてた油をさつと鍋に入れて作ったといふ。

こうしてできた粥（キヤ）の子は鍋の中に入った具材と出し汁がとても美味しかった。

伯母が亡くなった時、この粥（キヤ）の子のことが話題になり、あの汁が透明なのは味噌を濾し袋に入れて水出したものだと知り、なるほどと感心した。

『あきた民俗懇話会研究例会一〇〇回記念、食の民俗文化・秋田の食の民俗を見直して』の中の『けのこ汁談義・齊藤壽胤著』によると、粥（キヤ）の子は、きゃのこ・きゃのっこ・きゃの汁・きゃのこ汁など呼

び名はいろいろだが、語源は『粥の汁』というのがもっぱらとされ、秋田のみならず岩手の北部や青森でも広く食べられてきた料理だったといふ。

この豊岩前郷で作られていた粥（キヤ）の子は歴史が古く、永禄一〇年（一五六七年）、この地にあった白樺城の落城と結びつけられて語られている。当時雄物川の川向にあった豊嶋城の城主畠山玄蕃は、勢力が強大になってきた白樺城を攻撃しようとして永禄一〇年、正月、夜襲をかけ白樺城を攻め落としたのだといふ。粥（キヤ）の子はこの時に作られたものといふ。

豊嶋城は現在の秋田市河辺戸島にあり、白樺城との距離は六〜七キロメートル程あったようだ。この二つの城の間に雄物川（現在の古川）が蛇行していた。辺りは茫茫とした萱の茂みになっていたと思われる。

豊嶋側の兵士が夜襲をかける前に隠れていたあたり一帯は現在、昼寝という地名として残っている。これから戦いをする兵士が、萱の茂みに隠れて休んでいたといふことだろうか。こうした歴史に支えられて粥（キヤ）の子は作られてきたことになる。

お盆明けの八月一七日、三五日の忌明けの法要が伯母の家で行われた。当日は伯母の家族とこの家の本家に当たる家の主人、それからごく身近な親族など十名ほどが集まった。菩提寺の住職の読経の後、近くの墓地に納骨に行った。

町内の墓地は市道を歩いて数分の所であり、道沿いの民家の間の細い坂道を歩いてゆくと小高い台地の上にあった。そこからは四方を見渡すことができ、遠く太平山の山脈も見渡すことができた。伯母の家の墓はこの台地の一角にあり、黒い棹石の大きな墓だった。

納骨を済ませ皆で墓の前で手を合わせた。猛暑の後ということもあり、時折涼しい風が流れた。

納骨を終えて戻ってきた伯母の家の前には大規模に区画整理された稲田が青々と広がっていた。もう一カ月もすれば収穫の時期となる。田んぼではヒエをとったりしている農家の姿があった。倦まず弛まず田んぼの手入れを怠らないことも、伯母たちの世代が残っていたことの一つである。

雑記 (25)

横山 仁

週刊朝日さんからの取材回答

2021-08-03 22:27:13

週刊朝日様 質問と回答

2021.8.3

目覚めてる庶民 (自頭 2.0)

じぶんのアタマで判断されたし。

(引用開始)

344 名前：mespesado

「目覚めてる庶民 (自頭 2.0)」という人が、『週刊朝日』から取材依頼があり、それに対する回答を公開しています。素晴らしい回答なので、リンクを貼らせていただきます ↓

<https://ameblo.jp/awakened-citizen/entry-12690203193.html>

Q：ワクチンやマスクが危険だと考える理由と根拠について

まずワクチンについて

1. 接種後の死亡報告

ファイザー社のコミナテイ筋注に関しては厚生省HP内・第64回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会の資料に記載の通り、接種後の死者数が751例報告されています。これはあくまで報告された事例のみであり氷山の一角と見るのが妥当と考えます。

https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000809324.pdf

また米国 CDC の公式データがまとめられているワクチン有害事象報告システム (OPEN YEARS) において7月23日までのワクチン接種後の死者は11,940人、これも日本と同様、報告された数字だけであり氷山の一角と見るのが妥当です。

この OPEN YEARS は、2010年の調査報告書によると、有害事象の1%未満しか報告されていないとされており、実数は報告数の100倍以上と見るべきとも言われています。

<https://www.openvaers.com/covid-data>

これら接種後の死者数を多いと見るか少ないと見るかは見解が分かれるところですが、日本において一般的に多くの国民が接種しているインフルエンザワクチンを例に取ると、接種後の死亡事例は年間通じて数名 (1桁台) です。

平成27年のインフルエンザワクチンの接種後死亡率

を見てみると5100万人が接種して7人が亡くなられているため、割合としては730万人に1人です。対してコロナワクチンは3794万人が接種して、報告されているだけで751人が亡くなっていますから、6万7千人に1人、つまり接種後死亡率は108倍です。

米国においては2021年5月1日時点ですでに、「過去20年間のあらゆるワクチンによる死者の合計数」を上回っているというデータもあります。

他にも、イギリスの高齢者施設ではワクチン接種後に居住者の1/3以上が死亡、インドでは、1つの病院でワクチン接種者100人が死亡、ドイツのウルデインゲン高齢者施設では、ワクチンを接種した居住者42人の内13人が次々と死亡、スペインの高齢者施設では、ワクチン接種後の感染爆発で46人が死亡、などといった報道があります。

これら公的に発表されている数字だけを見ても「絶対に安全」と言い切れる要素はどこにもありません。

2. 前例のない mRNA ワクチン人体投与

そもそも今回のワクチンは従来のワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン等）とは異なり、遺伝子ワクチン（mRNA）であり、世界中で正式な認可は下りていません（緊急使用の許可が出ているのみ）。mRNA ワクチンは承認例がないどころか人体に投与した前例さえありません。

3. 開発から1年足らずで実用化

ファイザーワクチンの研究開始日は2020年4月29日、モデルナワクチンは2020年7月27日です。

本来7～10年かけて作られると言われるワクチンがたった1年足らずで作られたということは、長期毒性の検査は終わっていないという意味になります。

4. 省略された動物実験

テキサス州上院委員会における医師の証言で、コロナワクチンが十分な動物実験を飛ばして実用化されていること、mRNA ワクチンの動物実験は過去にも行わ

れているがその時の動物がすべて死んでしまっているため中止されたことが言及されています。

<https://greatgameindia.com/covid-animal-trials-stopped/>

ファイザー社の元副社長 & 元科学主任であるマイケル・イードン博士が、欧州医薬品庁（EMA）に提出した安全懸念の嘆願書で「動物実験が失敗した主な原因は抗体依存性感染増強（ADE）」であると述べています。

<https://dryburgh.com/mike-yeardon-coronavirus-vaccine-safety-concerns-petition/>

つまり今回のワクチンは「緊急承認」の名のもとに、動物実験や長期毒性の確認をスキップし、いきなり市中の庶民の体を使い大規模な接種が行われているのが実情です。これは大規模な人体実験に等しいと言っても過言ではありません。

5. 大量の副反応報告

接種後すぐに出る副反応だけでも、国内だけでなく厚労省HPに687ページ、18,281例の副反応が報告されています。

<https://www.mhlw.go.jp/content/10601000/000809312.pdf>

海外でも全身麻痺、ベル麻痺、皮膚異常、失明、血栓、流産などワクチン接種後の様々な副反応が報告されており、その数は増え続ける一方です。

接種開始からわずかの期間でこれだけの健康被害が出ている現状です。

更にこれから先の半年後～数年後にワクチンの影響については、どんな形で接種者の体に出てくるかは誰にも分かりません。

他にもフナイザーワクチンの承認書類に明記されていることとして、ワクチンの成分mRNA-LNPが肝臓・脾臓・副腎・卵巣に蓄積されるという事実もあります。LNPが卵巣に蓄積されることにより永久不妊を引き

起こす可能性があると指摘する免疫生物学の専門家もいます。

6. 治験中であるということ

フナイザー公式文書より、今回のコロナワクチンは正式に認可されたワクチンではなく、特別に使用許可が出ている薬です。現在テストしている段階ですので、接種した人のデータを集めて調査する＝治験中であることが明記されています。

<https://www.pfizer-covid19-vaccine.jp/%E5%B8%82%E8%B2%A9%E7%9B%B4%E5%BE%8C%E8%A%BF%E6%9F%BB%E3%81%94%E5%8D%94%E5%8A%9B%E3%81%AE%E3%81%8A%E9%A1%98%E3%81%84.pdf>

さらに現時点では感染予防効果は明らかになっていないことや、接種後にコロナにかかると重症化するリスクがあることもフナイザーの公式文書に明記されています。

重要な潜在的リスク

ワクチン接種に伴う疾患増強 (Vaccine-associated enhanced disease (VAED)) およびワクチン関連の呼吸器疾患増強 (Vaccine-associated enhanced respiratory disease (VAERD))

重要な潜在的リスクとした理由:

本剤の臨床試験において報告されていないものの、以下の報告を踏まえ、本剤の接種を受けた者が SARS-CoV-2 感染症に罹患した場合、VAED/VAERD により重症化する可能性があると考えられることから重要な潜在的リスクとした。

SARS-CoV-1 ワクチン候補を評価するために開発された動物モデル (マウス、フェレットおよび非ヒト霊長類) では、一部の研究で生ワクチン接種後のウイルス曝露時に疾患増強が認められた^{a)}。また一部の MARS ワクチン候補において、マウスモデルで疾患増強が認められた^{a) b)}。

疾患増強の潜在的なメカニズムは、T 細胞媒介性 (Th1 よりも Th2 による免疫病理学的反応) と抗体媒介性 (中和活性が不十分な抗体反応が導く免疫複合体の形成および補体の活性化もしくは Fc を介したウイルス侵入の増加) の両方であると考えられている^{a)}。

a) Lambert PH, Ambrosino DM, Andersen SR, et al. Consensus summary report for CEPI/BC March 12-13, 2020 meeting:

Assessment of risk of disease enhancement with COVID-19 vaccines. Vaccine 2020; 38(3):4783-91.

b) Haynes BF, Corey L, Fernandes P, et al. Prospects for a safe COVID-19 vaccine. Sci Transl Med 2020;12(568):eabed09448

c) Graham BS. Rapid COVID-19 vaccine development. Science 2020;368(6494):945-6.

新型コロナウイルスに効いたとしても、自己免疫の働きを弱める病気になる可能性が高まる。また、ADE という
でしよう可能性が非常に高く、免疫低下によりあらぬ自己免疫が暴走してしよう可能性も指摘されています。

<https://www.pfizer-covid19-vaccine.jp/%E5%8C%BB%E8%96%AC%E5%93%81%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%82%AF%E7%AE%A1%E7%90%86%E8%A8%88%E7%94%BB%E6%9B%B8%EF%BC%88RMP%EF%BC%89.pdf>

これだけのリスクが報告されているにもかかわらず、大手メディアはこれらを黙殺し、河野太郎ワクチン担当大臣は「安全」をメディアで連呼し、ワクチンに批判的な意見を根拠もなく「ダメ」と決めつけています。



ワクチンに関するリスクは、人々にとって極めて重大な情報であるにもかかわらず日本のメディアでは大きく取り上げられることはなく、絶対的に射つべきであるという一方的なプロパガンダだけが日々発信されています。

世界中の至るところで、ワクチン強制化に反対する大規模な市民デモが起きています。





本場にワクチンが安全で必要なものであるなら、人々は自ら望んで接種するはずです。世界中でこのような反対デモが起きているということは、ワクチンが不要で有害であると認識している人々が majority いる証です。

そもそも今回のワクチンは感染を予防する効果は評価されていません。

そのことをしっかりと伝えずにただ射たせるためのプロパガンダが行われていることが不自然で不誠実なのです。

本ワクチンの有効性

新型コロナウイルス感染症の予防

- 本ワクチンは新型コロナウイルス感染症の発症を予防するものではありません。
- 本ワクチン接種後も基本的な感染予防策（マスク着用、密集、密接及び密閉の回避、手洗いや咳エチケット等）が必要です（感染を予防する効果は評価されていません）。



● 本ワクチンの接種で十分な免疫ができるのは、2回目の接種を受けてから7日後度とを考えてください。

内汚染の原因となります。

次にマスクについてのリスクを述べます。

1. 呼吸障害

マスクは本来、人間にとって最も大切な、生命に関わる器官である鼻と口に常時フィルターを被せるものだから、呼吸への悪影響があることは考えなくても分かります。

マスクを着用して呼吸すると、マスク内のガス濃度は大きく変化し、マスク内に滞留した低酸素・高酸化炭素の空気が絶えず体内を行き来し、低酸素血症や高酸化炭素血症を引き起こすというリスクが報告されています。

2. 菌の繁殖

またマスクの長時間の着用はマスク内の菌の繁殖を増大させ、口鼻の衛生環境を悪化させます。マスクで呼吸し続けると、マスク内外に自分か吐き出した細菌や外気に混ざった雑菌の成分が滞留します。これらが繰り返し長期的に体内に再吸入されるといことは、体

3. ウイルスの溜め込み

マスクの表面にはコロナウイルスが7日間残存するという報道があります。

マスクの汚染レベルは最大20万種類のウイルスを含むと推定されるという研究も存在します。

4. 免疫力低下

上記の状態が続けば、生命の源である呼吸は制限され、本来吐き出してしまふべき雑菌やウイルスが長時間に渡って口の前に滞留することになります。これはマスクをすればするほど免疫力を低下させ、種々の感染症に感染しやすくしていると指摘する医師も多く存在します。

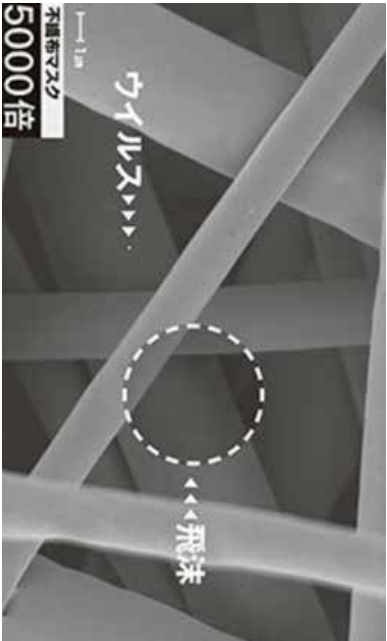
5. 表情や感情の剥奪

人と人との会話、コミュニケーションにおいて、お互いの顔や表情を見ながら話すことは極めて重要です。これが阻害され続けているのが2020年からの常識と

なりつつあります。
これは特に感受性が強く人格形成中の子供たちにとっては、コミュニケーション力の発育に深刻な影響を及ぼすと懸念されます。

6. マスクは感染予防にならない

そもそも、根本的な問題としてマスクでウイルスは防げません。
唾の飛沫をいくらか減らすことはできるでしょうが、感染症を防ぐことにはなりません。ウイルスやウイルスを含む小さな飛沫はマスクを素通りするからです。



感染症は飛沫感染だけではありません。私達の身の回りの至るところにウイルスや雑菌は存在し、接触、媒介物、空気などにより人々は常にウイルスに曝露・共有しています。

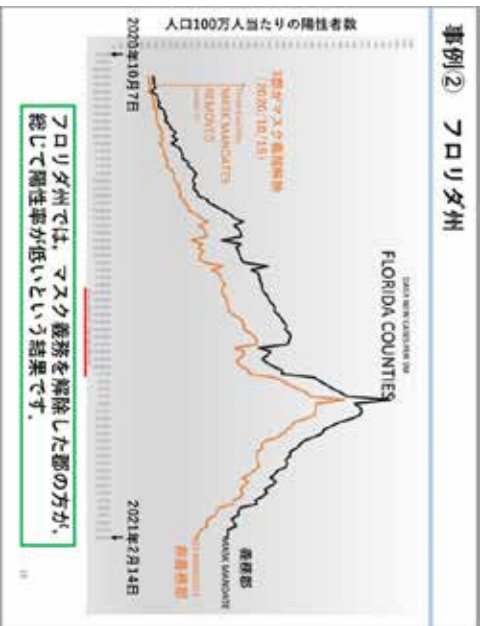
ウイルス感染を防ぐのは回避ではなく自己免疫力です。多くの医師・科学者・研究者はマスクの無意味さを発信し続けています。しかしそれらをすべてかき消す勢いで、世間の至るところでマスク推奨がアナウンスされ続けています。私はこれを集団洗脳だと思っています。

7. マスクの効果検証

日本では2020年以降99.9%の人が市中でマスクを常時着用しています。しかし現状、「感染者数」は爆発的に増えていることになっています。単純にこのこと自体がマスクが感染予防に無効である証左なのですが、実際に調査研究されている実例も存在します。

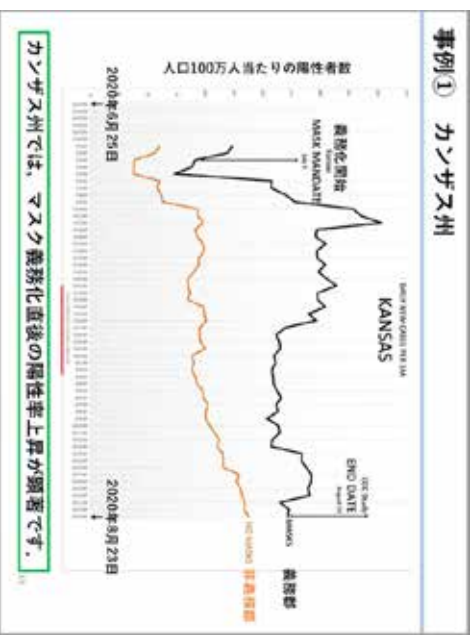
a. デンマークのランダム化比較試験

が陽性率が低いという結果です。



カンザス州ではマスク義務化直後に陽性率が上がっています。

マスクが逆効果ともいえる数字ですが、はっきり言えることはマスク着用に感染予防効果が出ていないという事実です。



8. マスクに関する個人的まとめ

マスクは着けた方が安心だという人は着ければよい。人に強制・半強制したり圧力をかけることはすべきでない。これが答えです。

繰り返しますがマスクで感染症は防げません。マスクだけしてほぼ正常運転を続けているのが今の日本です。

マスクが良くない理由

1. 不潔、不衛生
2. 酸欠、熱中症の原因
3. 感染症予防効果なし
4. 対人関係の阻害
5. 犯罪の助長

満員電車は毎日走り、おびただしい数の人が県をまたいで毎日行き来しています。
ショッピングモールやレストランは人で溢れ、休日の行楽地や遊園地・プールも大勢の人で賑わっています。

しかしコロナで若者や現役世代が亡くなった、重症化したという話は聞きません。

厚労省のオープンデータを見ても、18ヶ月集計して、若者の死者・重症者はほぼゼロです。

2021/7/28 現在
発生から 560日の累計

年代	死者数	死亡率/人口
10代以下	0	0.0000%
20代	9	0.0001%
30代	29	0.0002%
40代	116	0.0006%
50代	317	0.0019%
60代	990	0.0064%
70代	3,076	0.0187%
80代以上	8,346	0.0703%
不明	317	-
死亡率合計		0.0105%

自粛・注射必要???

2021/7/28 現在のコロナ重症者数

年代	重症者	人口比
10代以下	0	0.00000%
20代	0	0.00000%
30代	1	0.00000%
40代	27	0.00022%
50代	65	0.00044%
60代	100	0.00077%
70代	137	0.00088%
80代以上	79	0.00077%
不明	5	-
合計	414	0.00033%

現在、重症者100万人に3人

なぜ全国民にククチン???

このような極微細な病害しかない現状で全国民が生活習慣や文化の改変を強いられている。

そこに真の目的と恐怖があるのではないかと思っています。それを踏まえて次の質問に回答します。

Q：コロナ騒動の裏には、黒幕や何かしらの陰謀の存在があるとお考えですか？

黒幕というよりも、世界同時多発的なキャンペーンのように見えます。

「感染症対策」を旗印に、全世界が統一の価値観・統一のルールで縛られ始めているからです。

マスク、ソーシャルディスタンス、巣籠もり、移動制限、これらはウイルス感染症にはなりません。

極めて強毒のウイルスをごく短期間抑え込む方法論としては有効ですが、これだけ長期に渡って世界中に蔓延したとされる弱毒風邪症状ウイルスを抑え込む方法としてはあまりにもナンセンスです。

それを各国政府が金科玉条のごとく推進している。違

和感しか覚えません。

また、「県境またぎ禁止」「酒類提供禁止」「夜8時以降の飲食店営業禁止」など、全く科学的に感染症対策と関係のない制限が作られ、こじつけで感染対策にされている。

さらにそれが行われている同時期に同じ場所で、世界中から選手や関係者を招いてオリンピックが開催されている。

こんな馬鹿げた光景を目の当たりにして「感染症が流行っているだけだ」と信じるのはあまりに単純な単純な人のみです。

厚労省のオープンデータを見れば誰でも分かることですが、国内においては「新型コロナウイルス」の被害は極めて微細です。

2020年コロナ死者数は3466人でした。ほとんどが高齢者と基礎疾患を抱えた病人です。

また高齢者で陽性になっても回復し生還する人が圧倒

2021年7月29日 現在 第1号患者発生から 561日の累計

検査数	20,051,856 件
陽性者数(無症含む)	900,328 人
検査陽性率	4.5 %
退院・療養解除者数	827,784 人
療養中患者数(陽性者-退院者)	72,544 人
死者数(別の死因含む)	15,166 人
重症者数(6月29日時点)	626 人
現在コロナにかかっていない日本人	99.94 %
コロナで死んでいない日本人	99.99 %
現在の重症者/人口	0.00050 %

どこがパンデミック???

の多数です。(以下略) (引用終わり)

「ワクチンを接種した人がスパイクタンパク質を外部分泌し、周囲の人間に副反応(副作用)を他者に起こさせる可能性がワナイザーの文書で指摘されています。」というのは分子腫瘍研究所の荒川央氏。

あとがき

◆真夏日のある日、家の周りで蝉が鳴いていることに気付いた。外へ出て探すと、なんとコンクリート電柱にいる。樹液なし枝葉なし、熱くなっている電柱…。漸く成虫になったのに今時の蝉も大変だ、と人間の勝手な視点で思ってしまったが、蝉くん本当はどうなのだろうか。(B)

◆8月初め、鳥海山はうれしいことに花が盛りで、特にツリガネニンジンが道の先々で群落をつくっていた。自宅裏山で見るものよりも釣鐘が少し大きく、青紫も濃い色だった。翌日開いた植物の本には、この花が九州・阿蘇の牧草地で咲き揺れるさまが記されていて、向こうでも咲くのかアと知り、得をした気分になった。(S)

◆8月の終わり、黄化し始めたイネの穂波から頭一つ抜け出たヒエの穂にノビタキというスズメ大の小鳥が一羽とまっていた。オスは頭と羽根が黒く、胸のあたりは橙色の小鳥で、冬鳥と思っていたが夏鳥で南へ帰る渡りの途中だという。田んぼに似合う鳥だと思う。(T)

◆YouTubeの「うむ農園 自然栽培チャンネル」のコメント欄に、「雷のこと稲妻っていいですね ^^ / 稲妻が走ると稲が実るとはよく言ったものです。 / 雷雨は窒素を地上にもたらす大切な自然現象だということがよくわかります。(中略)」(yuji cendough さん)とあった。これはTさんの専門だな。(J)

「海市」第25号

2021年9月20日発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方